

モバイルハンディーSlam PENTAX HS-X1 PinotCloud Studio
データ処理マニュアル(GCP処理編)



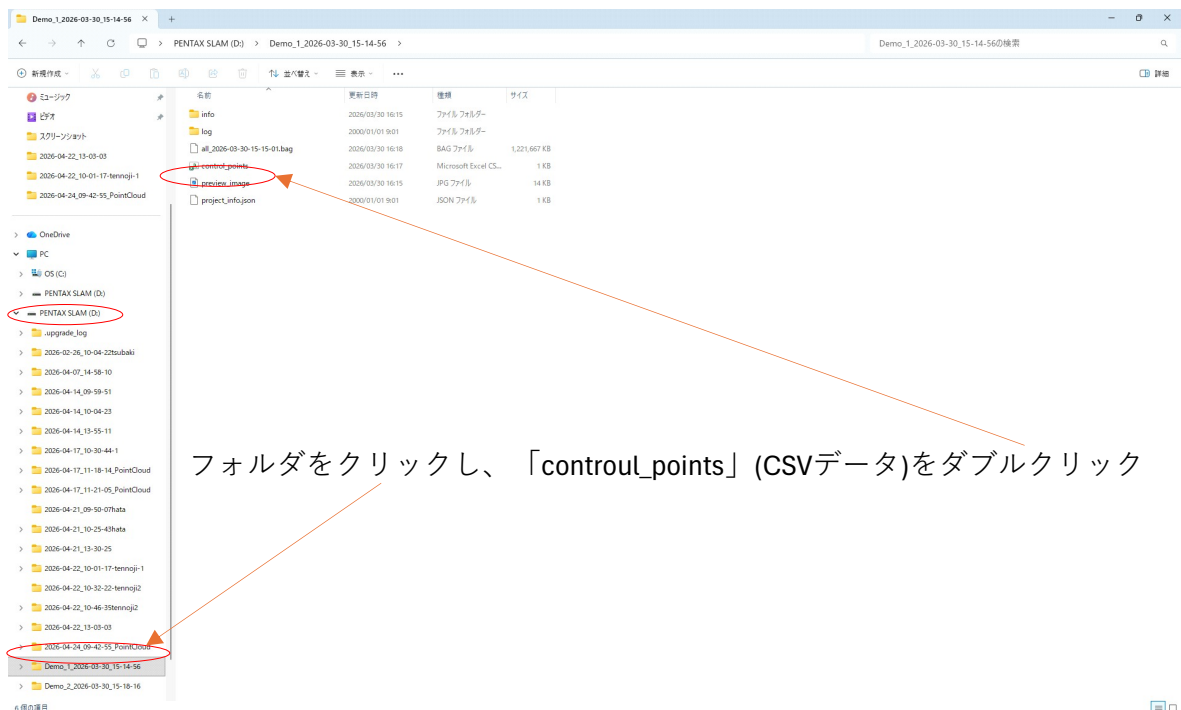
1.HS-X1本体の側面からTFカード(メモリーカード)を取り外す。



2.付属のカードリーダー（USB変換）にTFカード(メモリーカード)を差し込む。

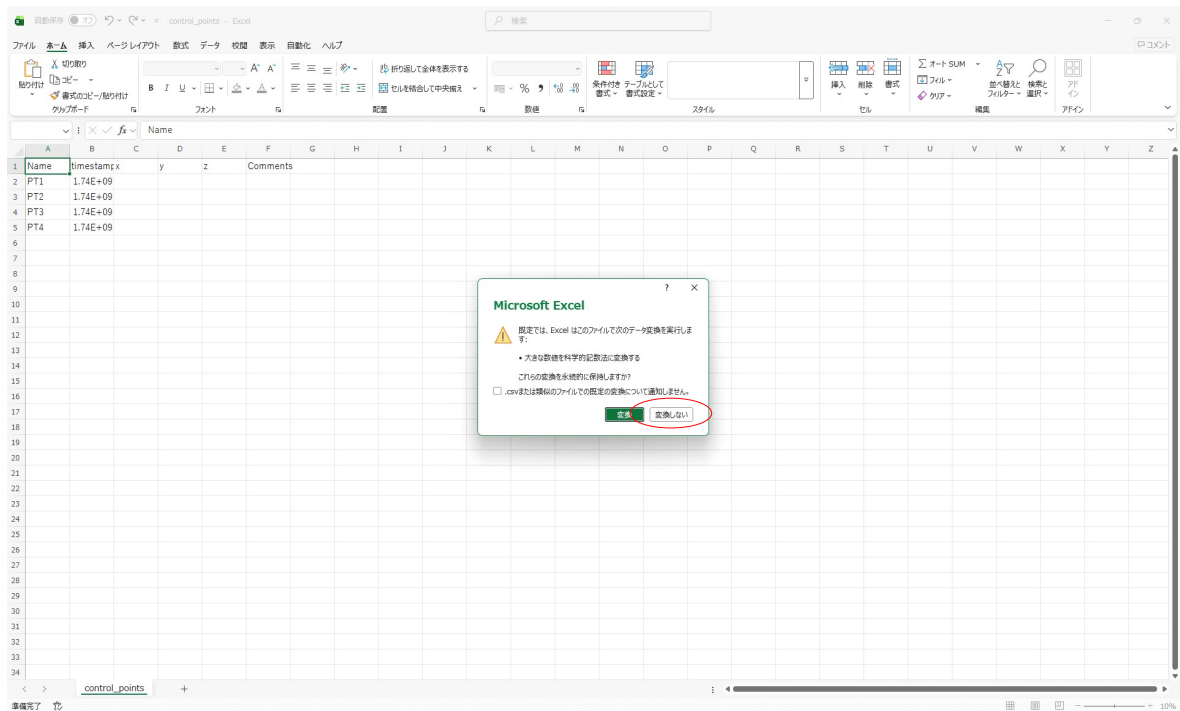


3.PCにカードリーダー(USB変換)を差し込む。

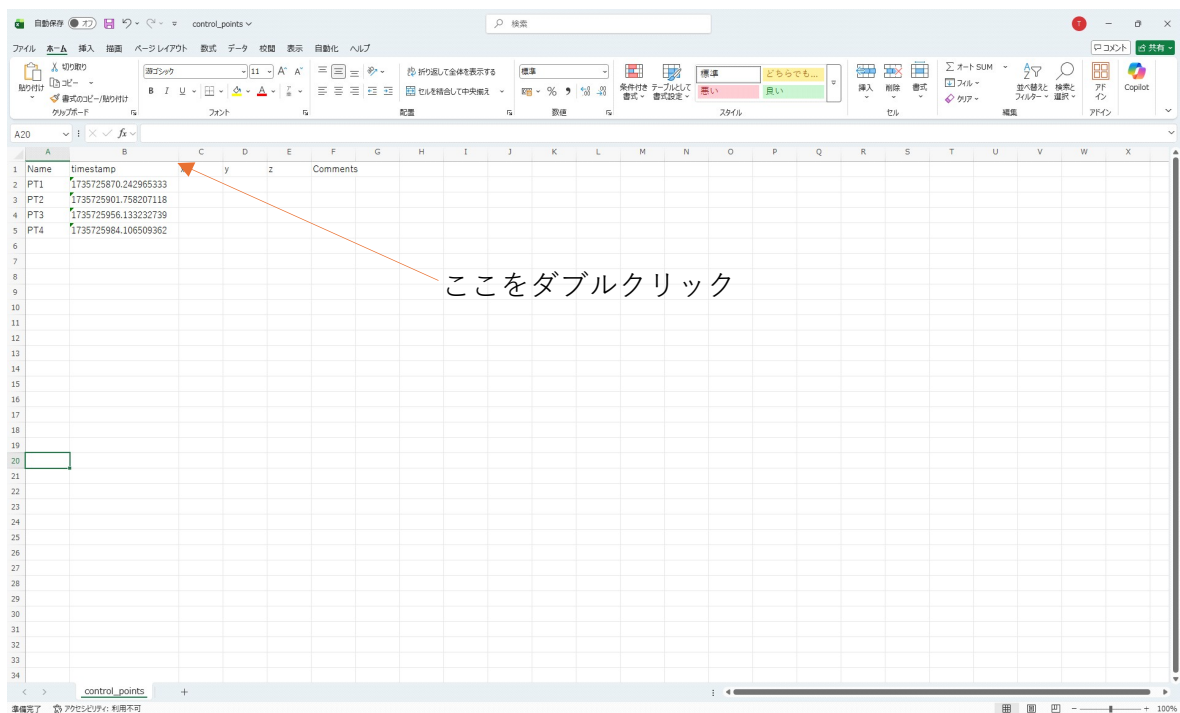


フォルダをクリックし、「controul_points」(CSVデータ)をダブルクリック

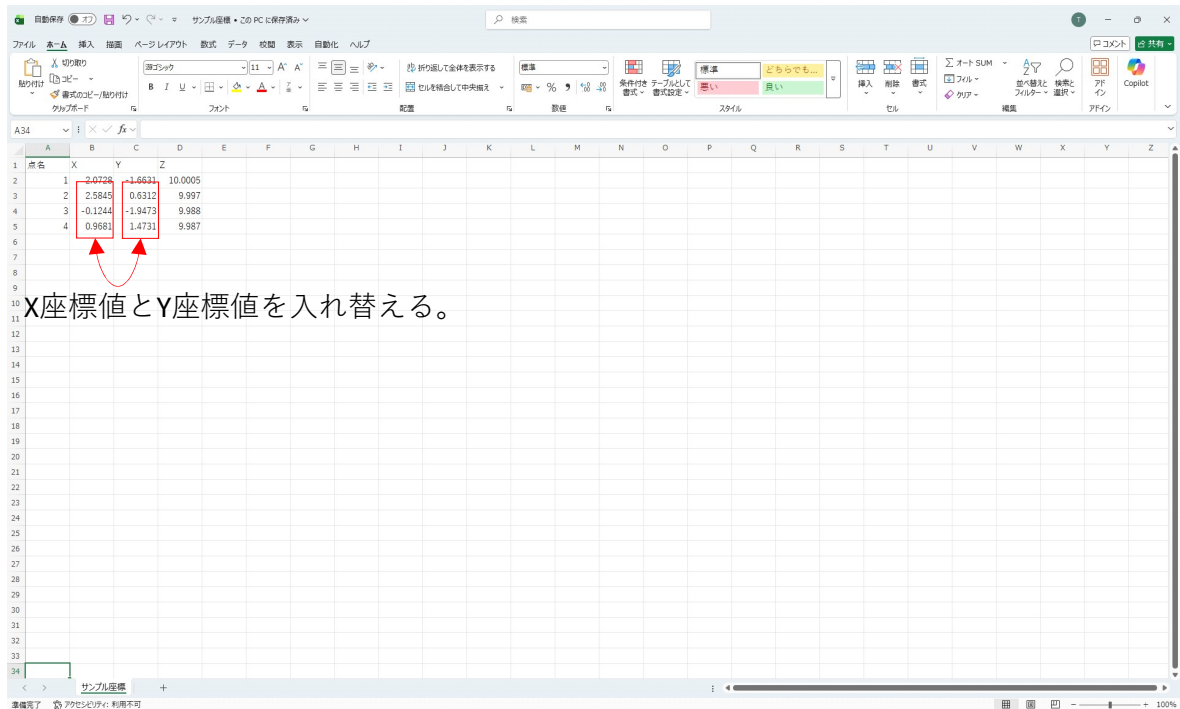
4.カードリーダー(USB変換)は「PENTAX SLAM」と表示され、その中に計測済みのデータフォルダが表示されるので処理したいフォルダをクリックし、「controul_points」(CSVデータ)をダブルクリックする。



5.上記のメッセージが表示されるので「変換しない」を選択



6.計測時に登録したGCP(コントロールポイント)の点名とtimestampが表示される。(見やすいようにB列右をダブルクリックし文字全体を表示させる。)

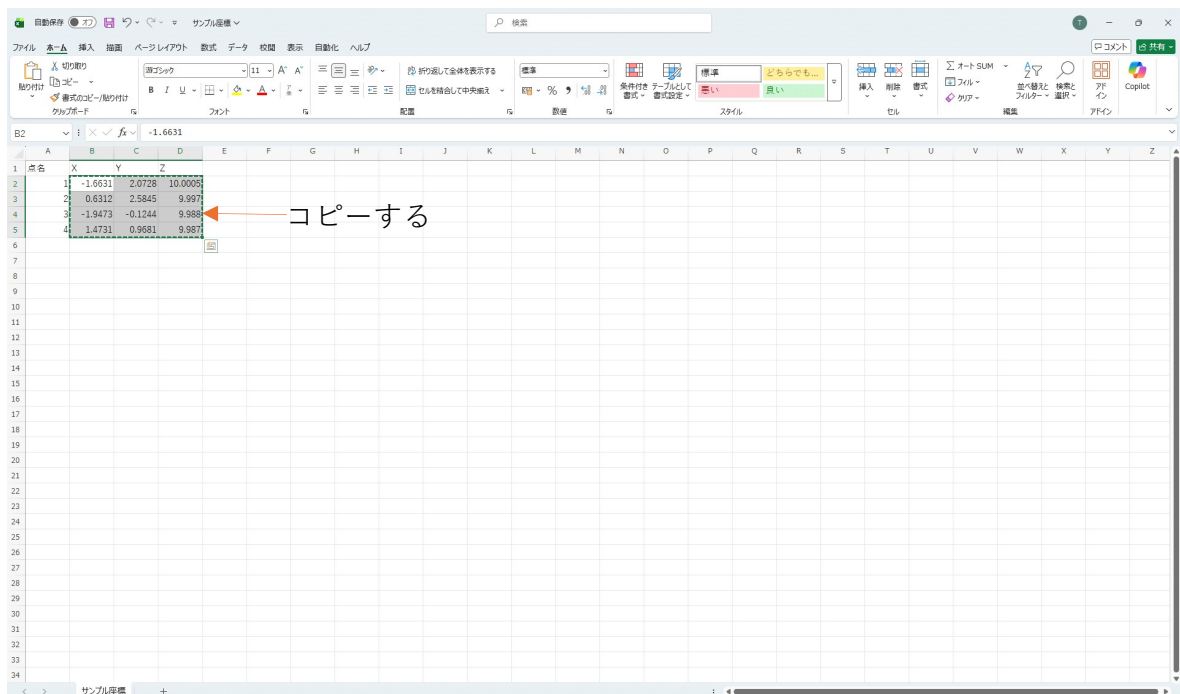


7.既知点座標リストをCSVで用意しておき、開く。

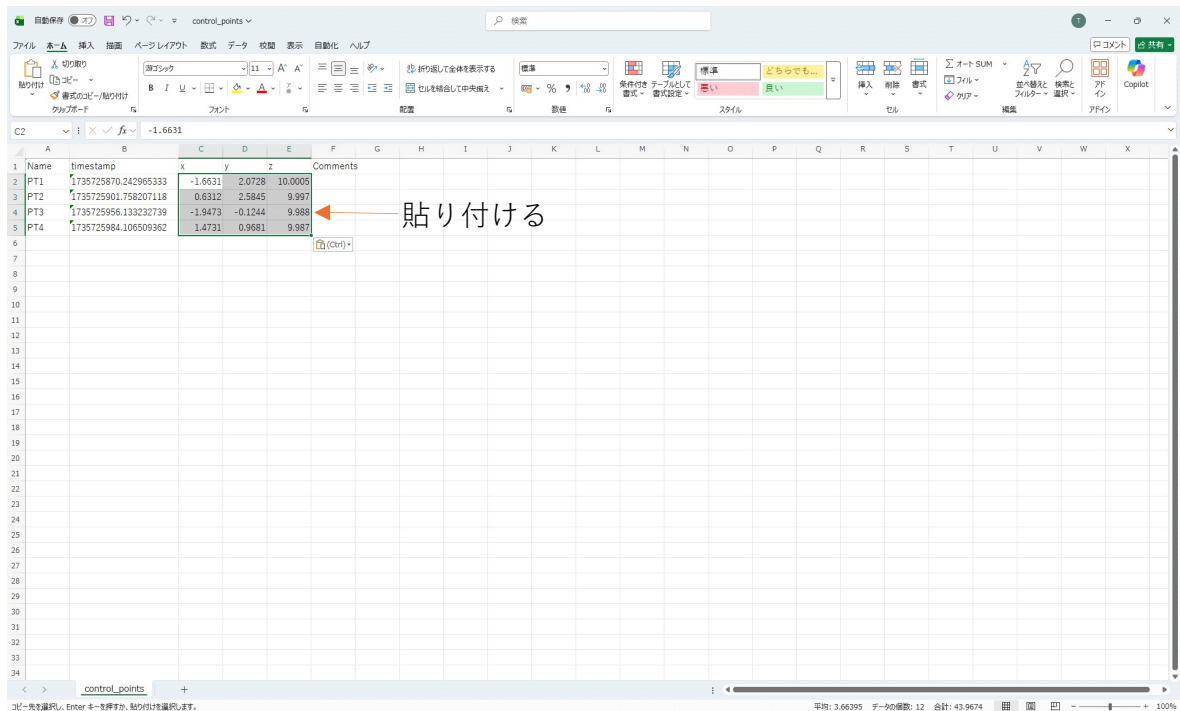
GCP登録した順番(PT1等)と既知点座標リストの点名を合わせておくとコピーしやすい。

既知点座標リストは大体は測量座標系ため、**X座標値とY座標値を逆にする。**

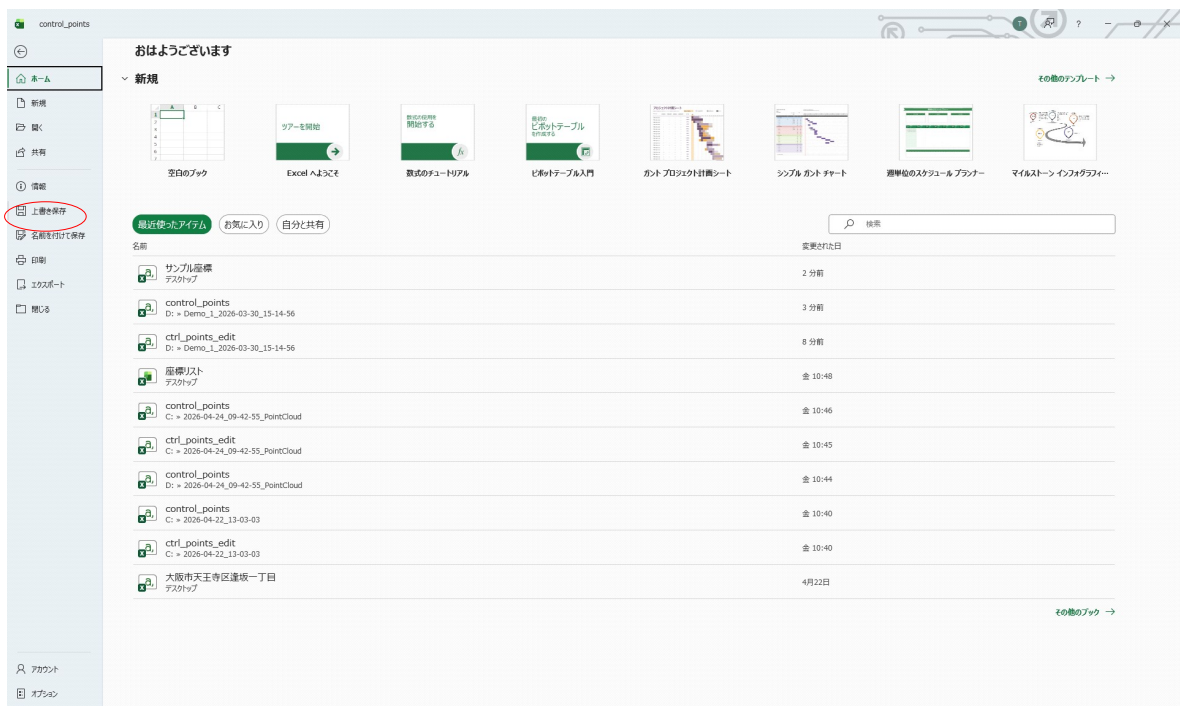
(数学座標系になっている場合は不要)



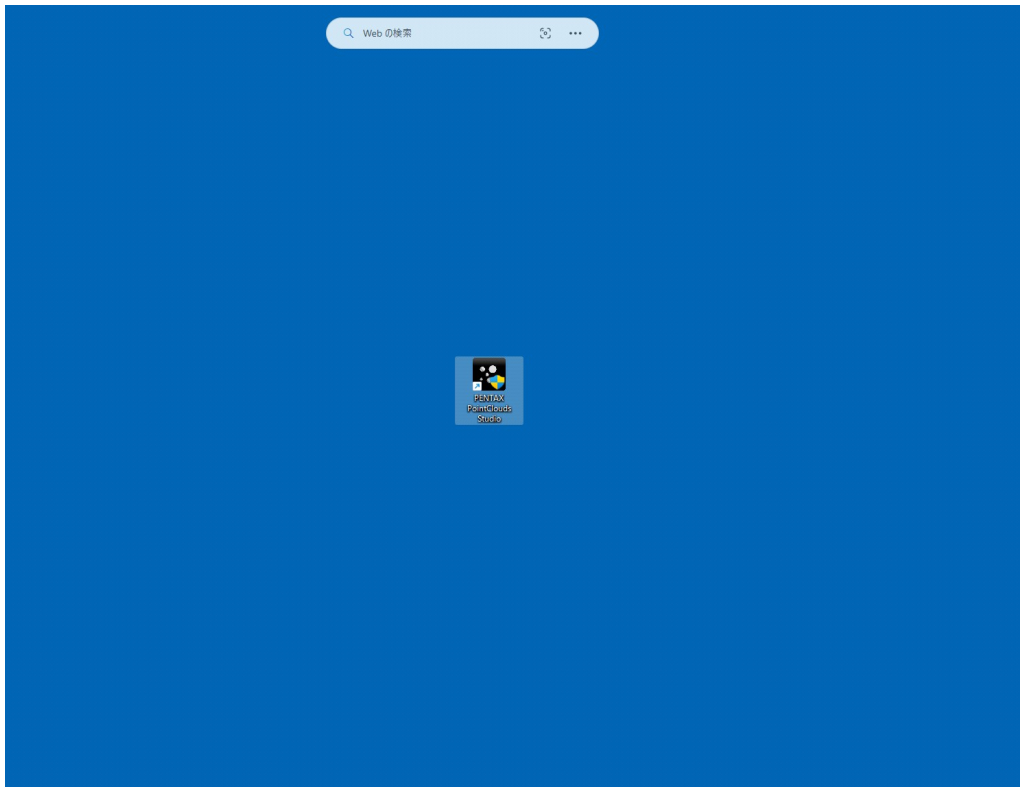
8.座標値をコピーする。



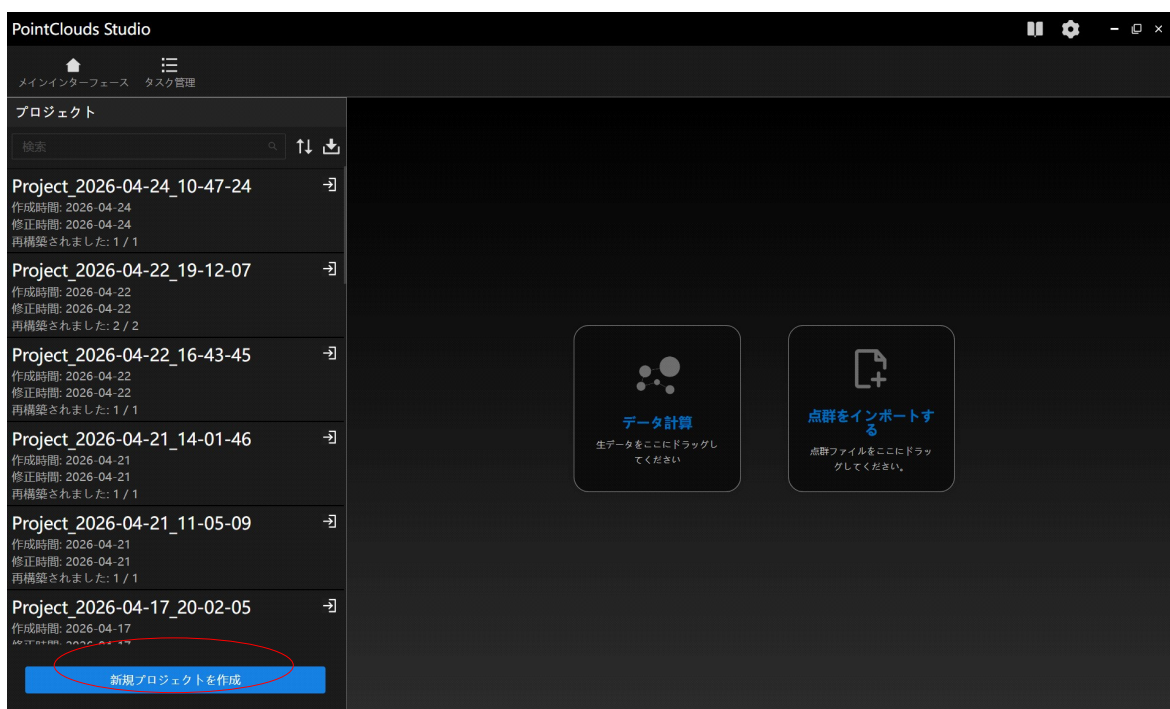
9. 「controul_points」 (CSVデータ)を表示させ貼り付ける。
(一つ一つ座標をコピー&貼り付けをしてもよい)



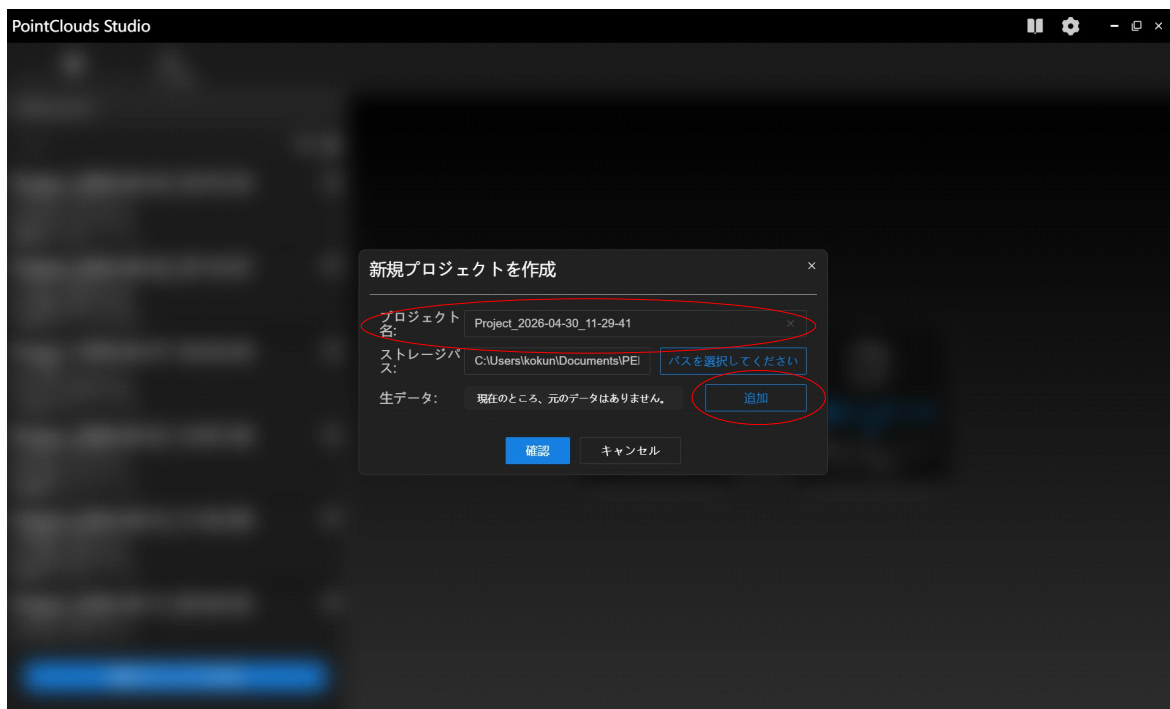
10. 「controul_points」 (CSVデータ)を上書き保存する。
(「controul_points」 (CSVデータ)と既知点座標リスト(CSVデータ)は閉じてOK)



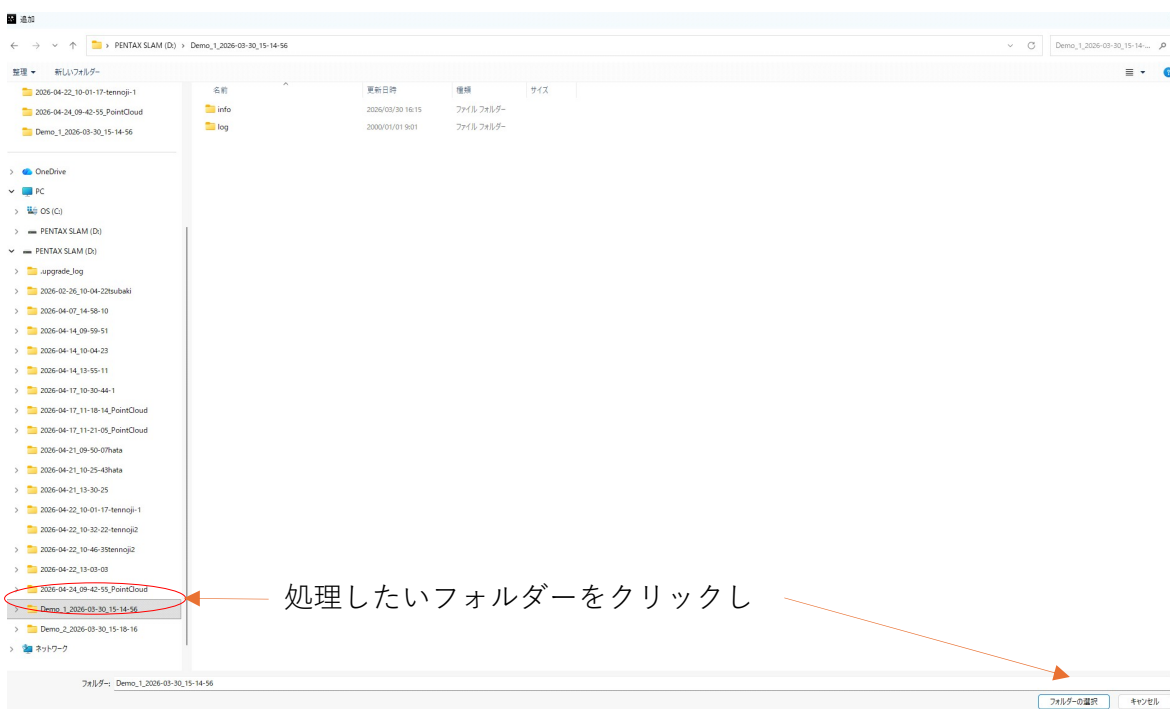
11. 「PENTAX PointClouds Studio」を開く。



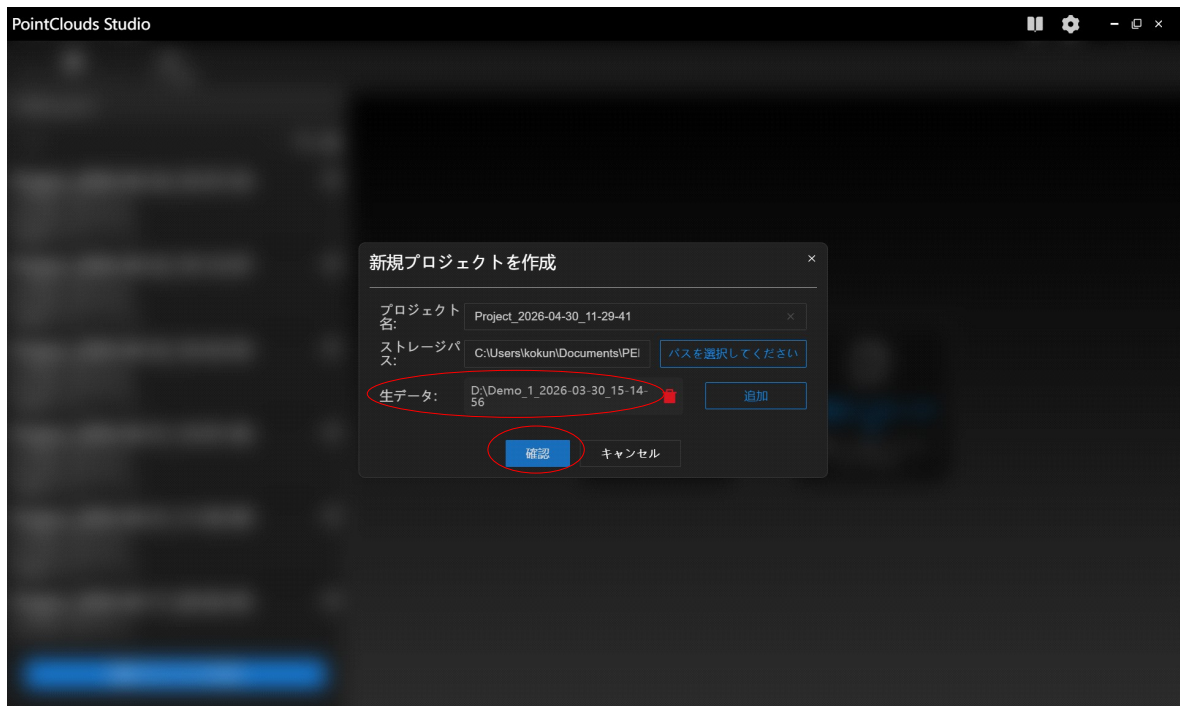
12. 「新規プロジェクトを作成」を選択。



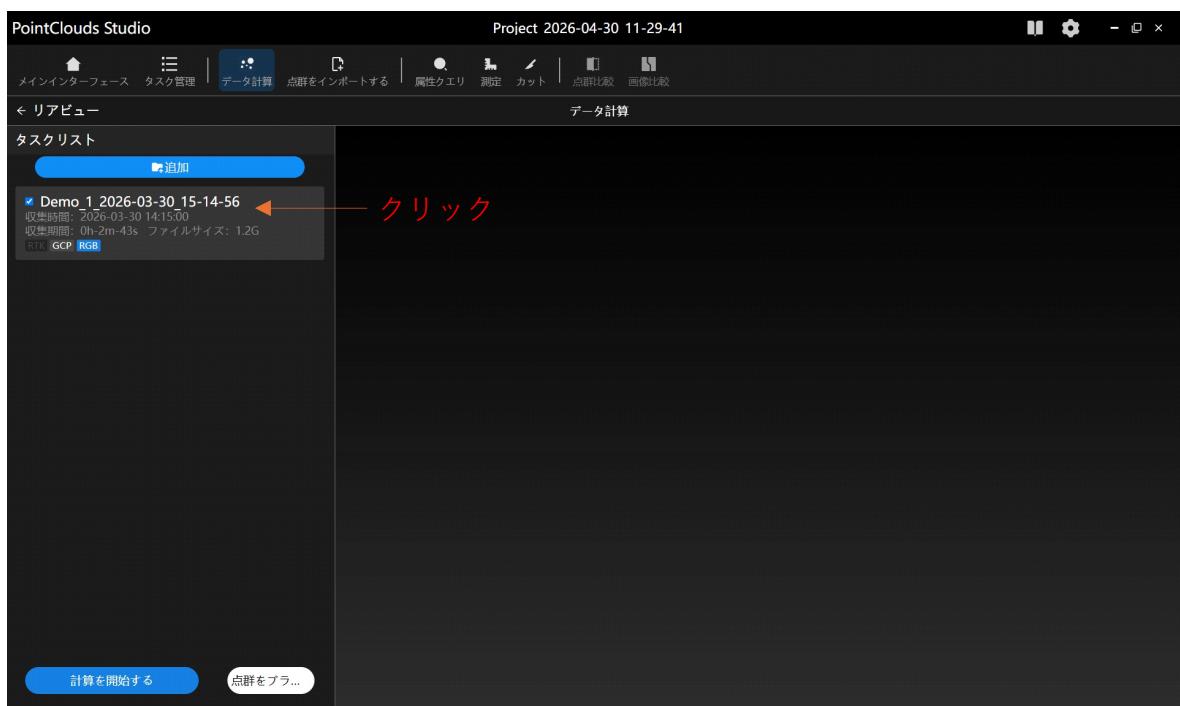
13.プロジェクト名を変更場合は入力し、追加を選択。



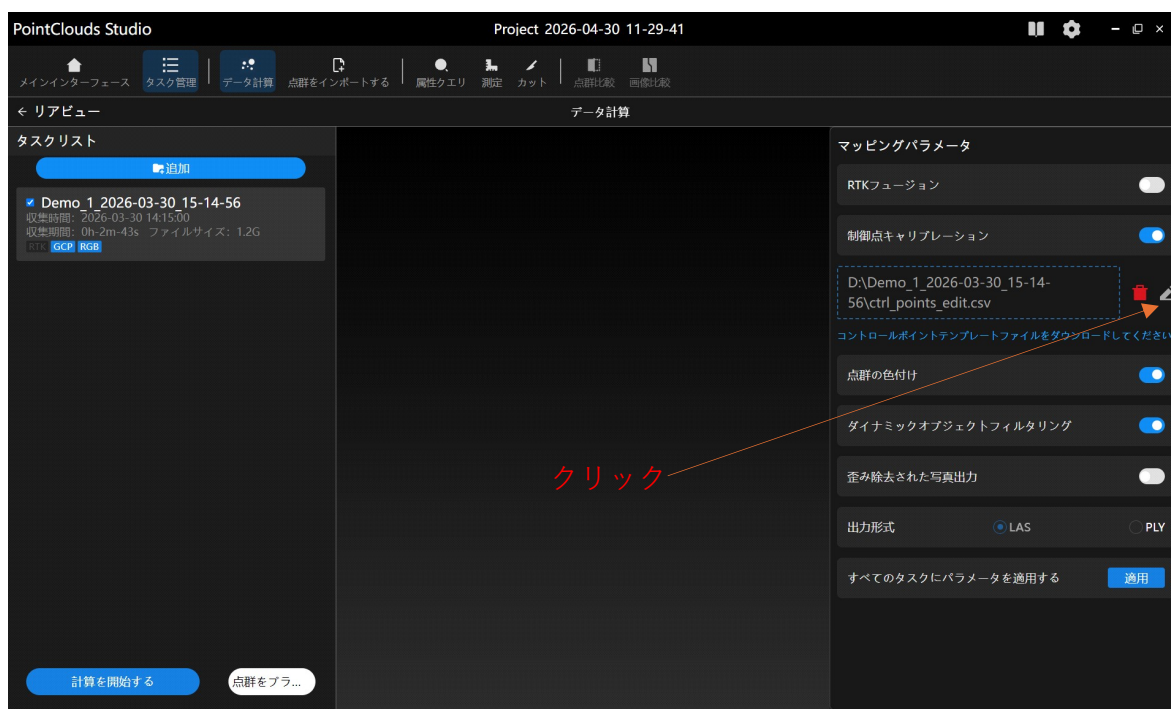
14.カードリーダー(USB変換)「PENTAX SLAM」の中から処理したいフォルダーを選択し、「フォルダの選択」をクリック。
(フォルダーごと選択してください。)



15.生データにフォルダーが追加されたのを確認し、確認を選択。



16.タスクリストのプロジェクト名をクリック。

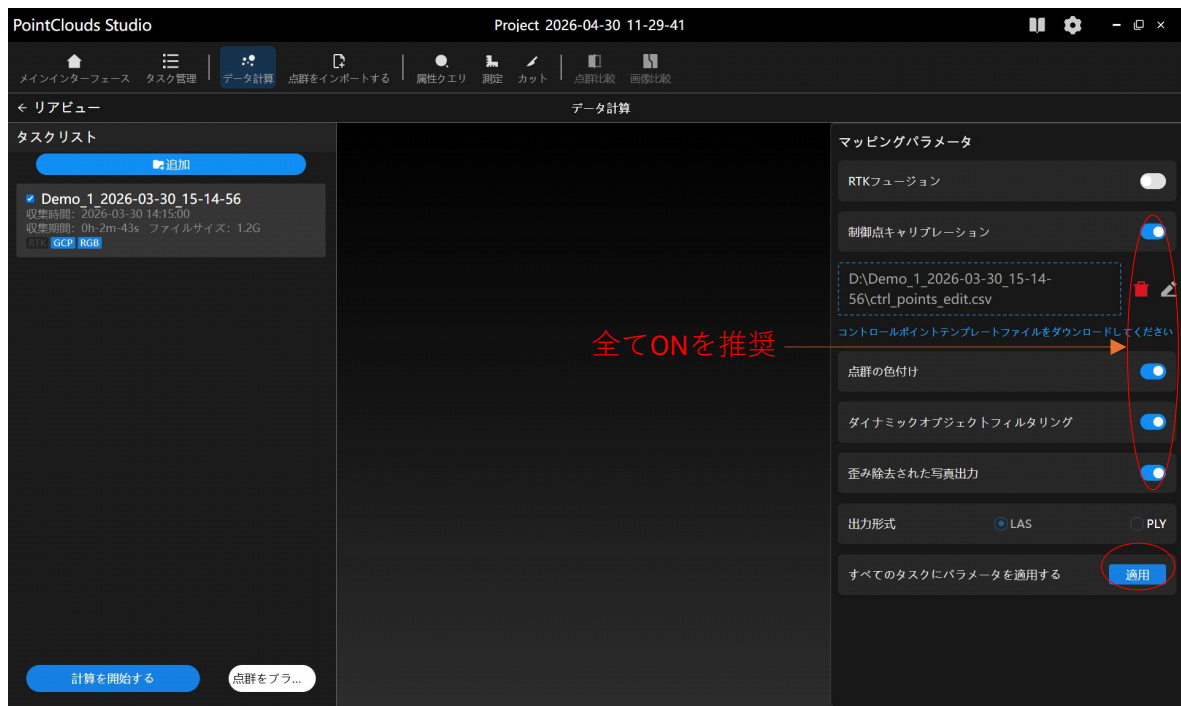


17.鉛筆マークをクリック

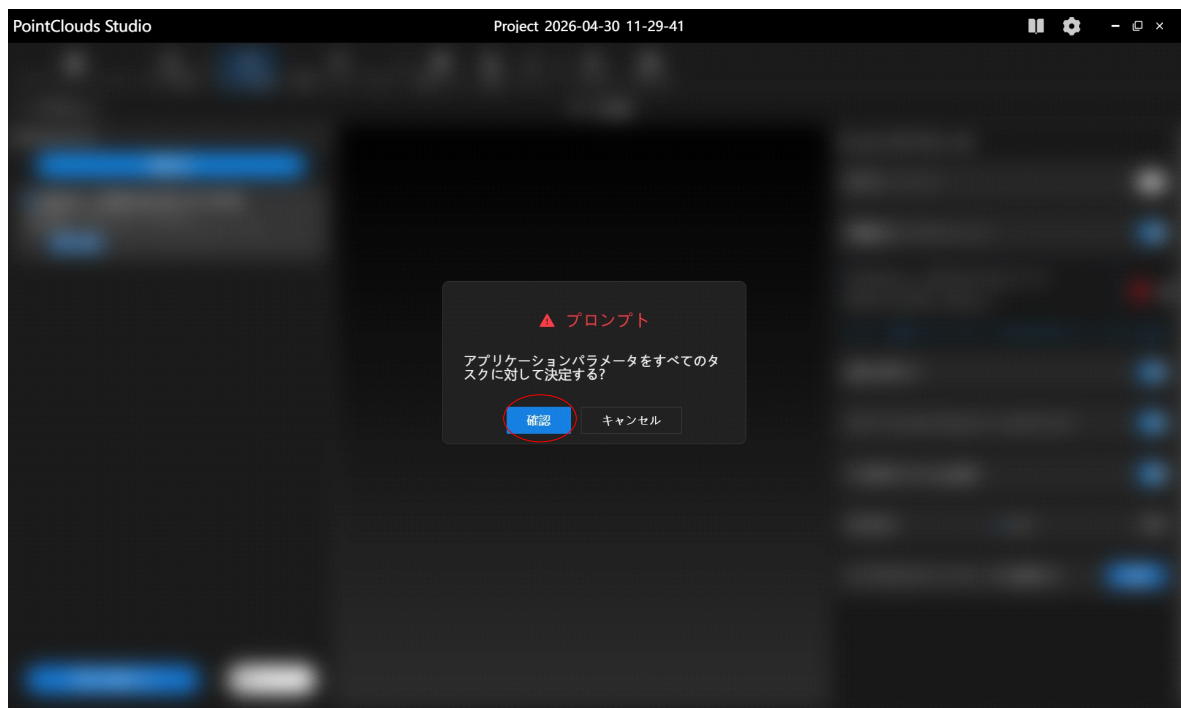


18.GCPの座標値が合っているか確認し、保存を選択。

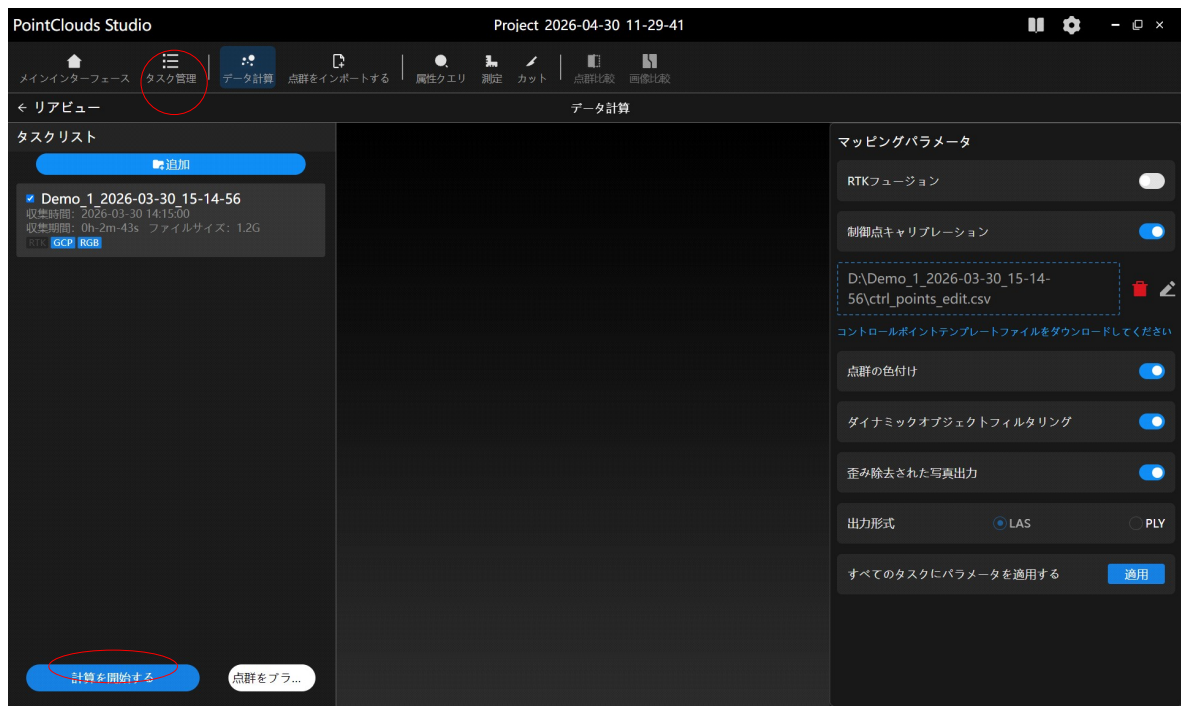
(マニュアル項目4～10のGCPをCSVを使って入力する方法をしない場合は、ここで直接座標値を入力すればGCP登録できます。)



19.適用をクリック。
(マッピングパラメーターは全てONを推奨します。)



20.確認を選択。



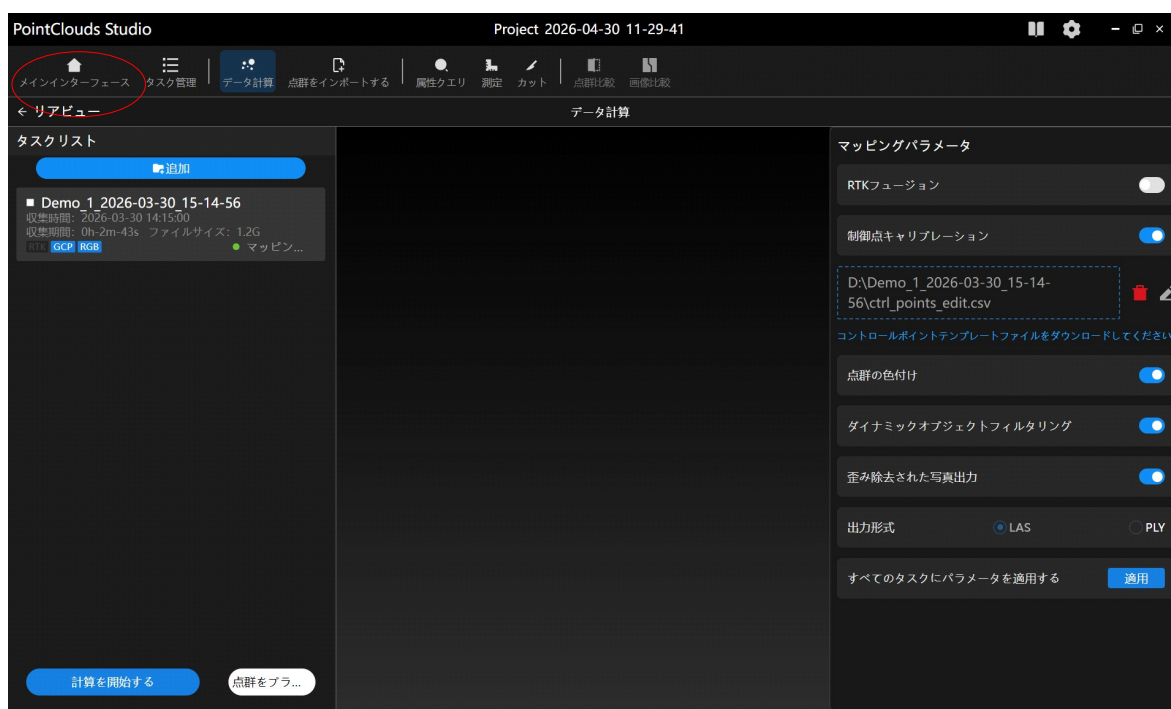
21. 計算を開始するを選択。
 タスク管理をクリック。



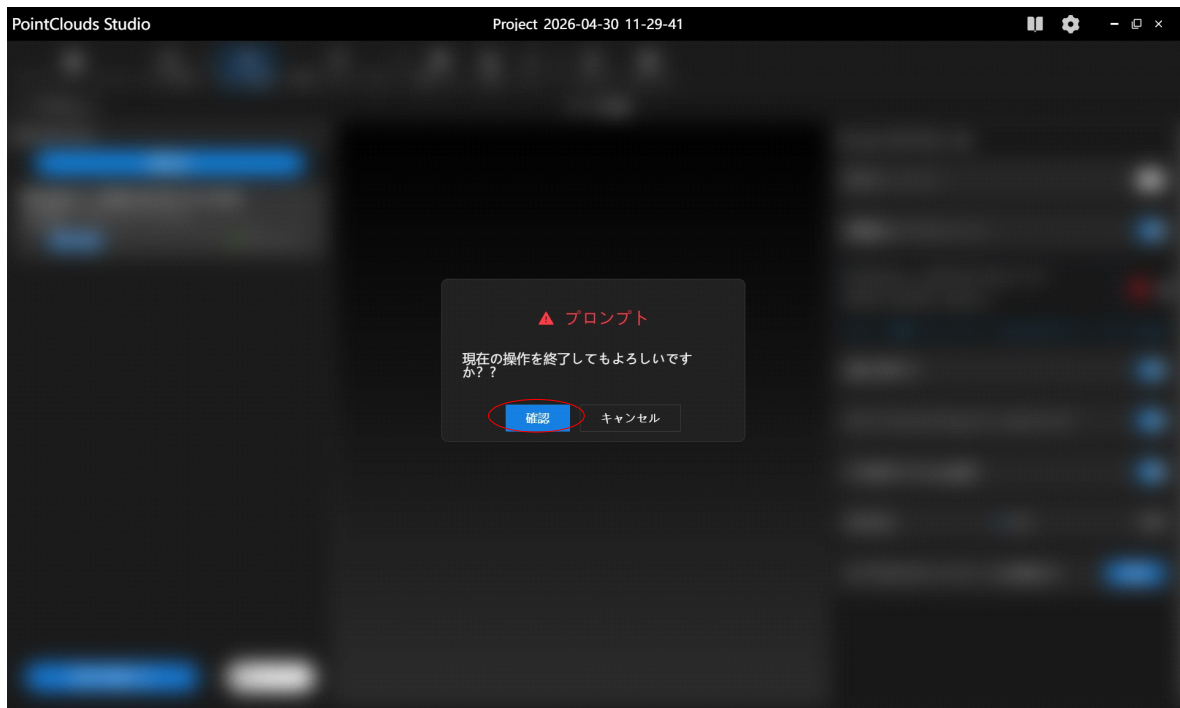
22. ステータスが100%になるまで待つ。



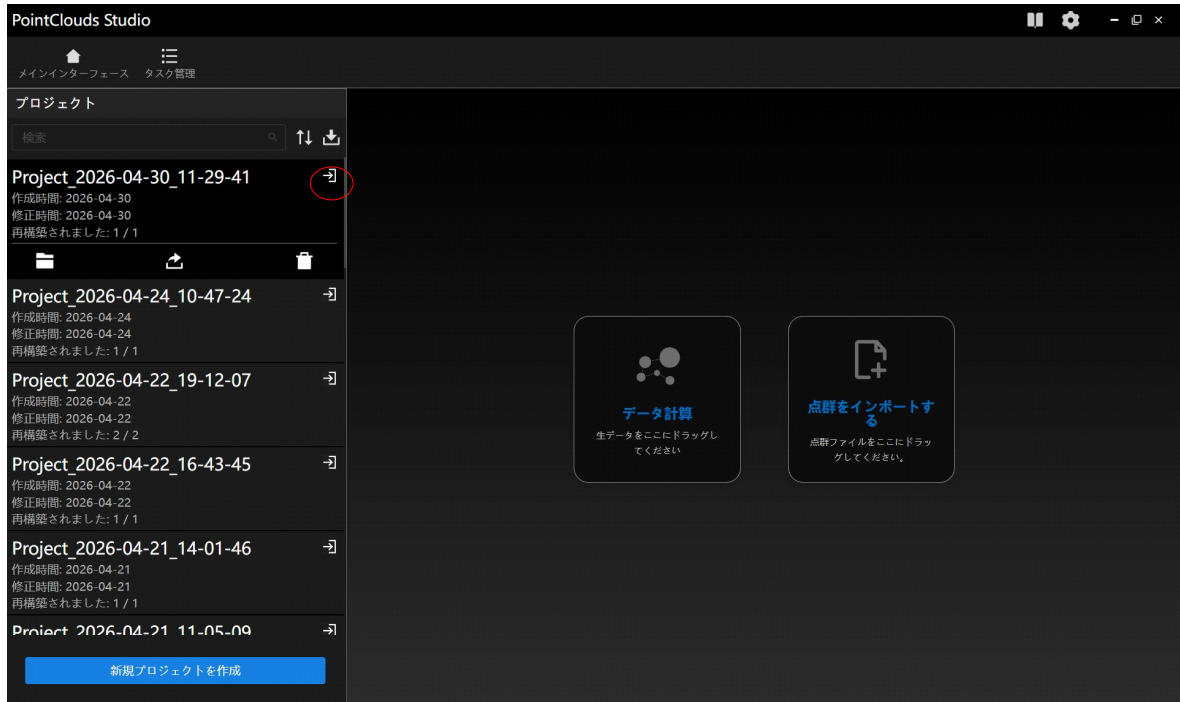
23.処理が終了すると上記画面になるので確認を選択。



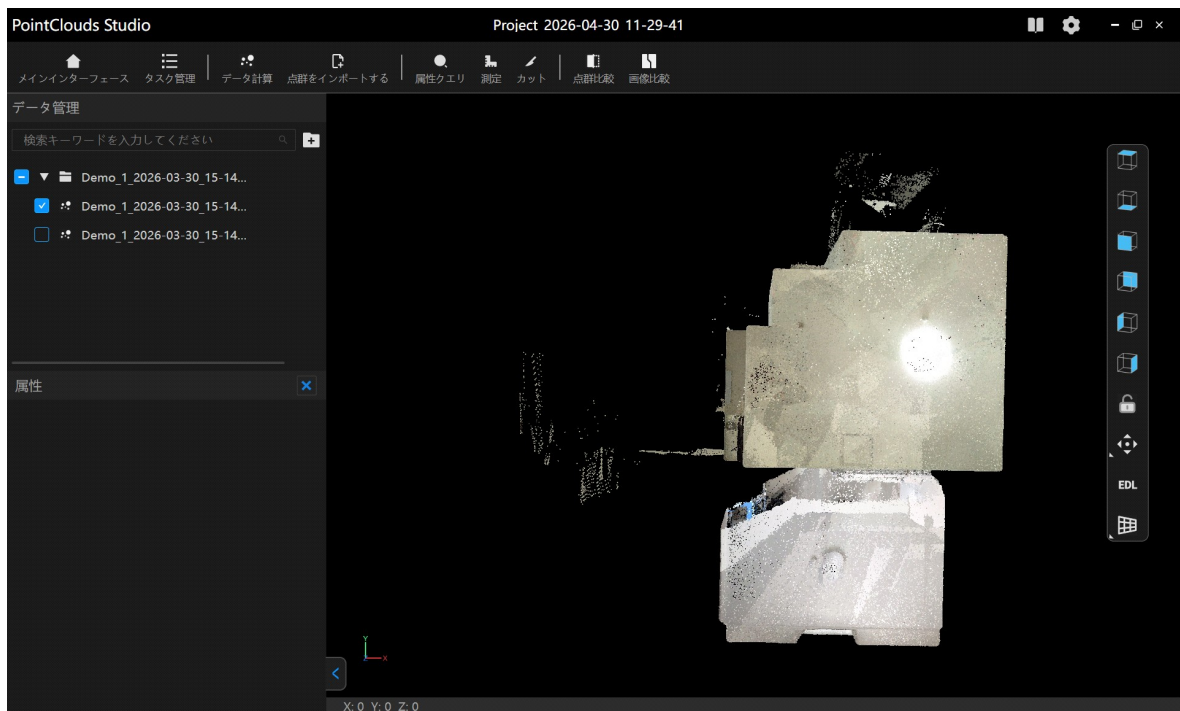
24.「メインインターフェース」をクリック



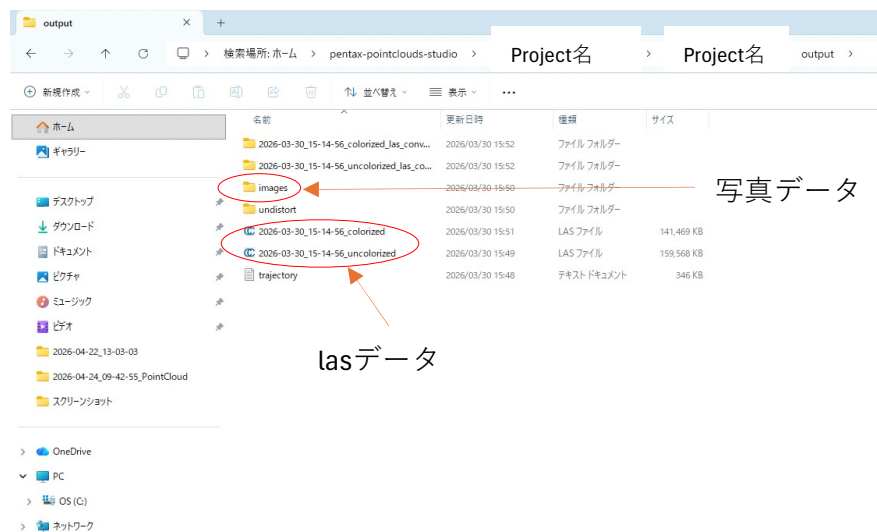
25.確認を選択。



26.処理したプロジェクトの右矢印マークをクリックする。



27.点群ビューワーが表示されるのでデータを確認し、終了。



28.処理後データは「pentax-pointclouds-studio」に保存されています。
 PCの検索画面で「pentax-pointclouds-studio」を検索し、
 プロジェクト名のフォルダーに入ってくださいと、「logs」と「output」の
 フォルダーが作られており、「output」内にlasデータが保存されております。
 また「output」フォルダー内の「imagers」フォルダー内に左右パノラマカメラで
 撮影した写真が保存されております。
 (PCデスクトップ等に「pentax-pointclouds-studio」ショートカットフォルダーの
 作成をお勧めいたします。)